

「みんなの音楽会 Vol.3」インタビュー

Q:バリアフリーコンサートに対しての想いを聞かせてください。

鶴木 このバリアフリーコンサートって、自分にとってはすごく衝撃的な演奏会だったんです。思い込みがあったんですよね。どこかで「耳が聞こえない=音を楽しめない」ののではないかっていう。だけど、この企画を実際にやってみて、「自分の思い込みは違ったんだな。」という印象を受けました。今の皆さんを取り巻く環境の中で音を楽しむことについて、演奏者も意識を変えたり、このチラシを目にした方も意識を変えて、「自分はあまりよく聞こえないから」「小さな子どもがいるから」とか、そうではなくて。もっと自由に楽しめるんだな、と実感したコンサートでもありますので、ぜひそれを皆さんにも感じて欲しいと思いました。

中川 すべての方が聴けるコンサートって、意外とありそうでなかったと僕は思っているんですよね。僕は“0歳からのコンサートなど、あらゆる種類のコンサートをやっているんですが、ここまで幅広い層を対象にしているコンサートは、なかなかない。来てくださった方が自由に聴いてくれると思うと、演奏者としても熱が入ります。

例えば、プログラムにもある、絵本というのは、絵でもなくて本だけでもないんですよ。当たり前ですけど、絵と本で絵本なんです。絵でファンタジーを膨らませるということもあるし、言葉だけでわからないところを絵で補うということもある。実は、音楽を聴くのも同じで、作曲家の意図とか、演奏者の思いとか、いろいろなものが混ざって、音楽なんです。しかも、聴き手の受け取り方に正解はない。その自由さも含めて音楽で、音楽こそバリアフリーなんだと思っています。

Q:バリアフリーコンサートの見どころは？

中川 今回のプログラムは、動いてもいいよというアピールも含めて、手遊びなどを入れて一緒に楽しめるようにしています。絵本もポイントで、ストーリーはシンプルなんですけど、音楽と合わせると途端に絵にリズムが出てくるというか、そういうところをまた楽しんでもらいたいですね。そして、その絵本を「家で読んで」と子どもが言ってくれたら、なお嬉しいです。“大人が楽しむバリアフリーコンサート”の方の絵本「100万回生きたねこ」は、すごくいろんな捉え方ができる絵本だと思います。例えば子供が読んだときと、40~50歳の人が読んだときと、70歳くらいの方が読んだときと、多分捉え方がずいぶん違うのではないかと。来ていただく皆さんに新しい楽しみが見つかるコンサートです。

Q:どんな方にご来場いただきたいですか？

中川 僕がぜひ来て欲しいのは、コンサートに行ったことのない人です。初めてだからこそ、このコンサートをお勧めします。なぜなら、聴き方は皆さんとても自由なので。我々も自由に聴いているということに関して、むしろ喜んで演奏します。コンサートデビューってというのは、よく子どものコンサートの宣伝に使われることはあるんですけど、大人でも、初めてコンサートに行く人もいますよね。今回は特に様々な方が来るので、本当にどんな方でも、気軽に会場に入れます。だからと言って、内容が初心者向けというものに限らないのが本当にオススメするところ。どんな方にも間違いなく楽しんでいただけたらと思います。

鵜木 きっかけは何でもいいんです。チケットのお値段でもいいですし、チラシの絵がかわいいわね、でもいいですし、お父さんちょっと最近耳が遠くなってきているけれど連れていってみようかしら、みたいな。うちの子よく泣くからって心配な親御さんも、ぜひこちらの公演に来て欲しい。可愛い絵本も用意していますし、絶対に楽しめます。午後の“大人が楽しむバリアフリーコンサート”は大人向けっていう風になっているけれど、小学生から大丈夫なので、ご家族で来ていただきたいです。

Q:鑑賞サポートについて、気になるものはありますか？

鵜木 UDトークは今の時代にマッチしているなと思いました。今ってTikTokとかインスタとか、喋っていることが全部文字でバンバン出てくるんですよね。私たちの世代だと、ある時からテレビにテロップがすごく流れ出しましたよね。お笑い番組でも何でも。文字を追うということは、みなさん慣れていると思うんです。そういう意味で、ただ演奏したり絵本を読んだりするだけではなくて、言葉の内容理解という意味でも、ググッと深まるんじゃないかと思います。UDトークっていう言葉で出されちゃうと、なんだろう？と思うかもしれないけど、実際に足を運んで見てみると、意外と身近にあったな。と感じると思います。

中川 毎回、毎回サポートが増えてブラッシュアップしているんです。次は何が起こるんだろうってね、演奏者としても、とても楽しみです。たとえば難聴の方は、手話とUDトークの文字支援で両方活用できるとか、難聴者支援システムも骨伝導ヘッドホンや補聴器を補助するシルエットインダクター型のイヤホンなど、いくつかの選択肢が増えてきています。骨伝導システムは実は我々もどうやって聞こえるのか実際に試してみました。みなさんにどう届いているのか考えながら演奏していますし、演奏者側として、心構えをしっかり持って、演奏しています。また、UDトークは、演奏者の生の声が出てくるので、とてもリアル

で面白いと思うんです。「うーん、ちょっと待って」とか悩んでるような感じとか、我々の体温が全部伝わると思うんです。いろいろな鑑賞サポートによって、非常にアットホームで、演奏者の体温を感じるような聴き方ができると思うので、ぜひ皆さんご期待ください。

Q:みなさんにメッセージをお願いします。

中川 音楽って、まだまだ分からないことが本当にたくさんあるんですよね。「なんでこの曲にこんなに感動するんだろう？」とか。それはやはり、どんな良いオーディオを使っても、機械から聞こえるものは、機械を通した音に聞こえる。それに対して、生の音楽っていうのはそうじゃない。本当に分からないミステリーの中で生きているわけです。だけどそこで何かを得るっていうのは、これはすごく神秘的で面白いことで、ぜひそれを実際に会場で感じてほしい。そういうことが捉えにくいって方のためにも、たくさんサポートがあって、どんな方でも楽しめるので、みなさんに来ていただけたら幸いです。

鶴木 音ってやっぱりその場において、目には見えないけど、感じて、意識として共有することができる素敵なものだと思うんですね。私自身も、YouTube で好きな音楽を流すことってよくあるんですよ。だけど会場で聞くと全然違う。中川さんのピアノは、振動がすごく、空気が揺れるんです。絶対会場で聞いた方がいいと思います。

ただ音を聴くとかじゃなくて、コンサートで生の音楽を感じてほしいですね。そして、私たちと一緒に、その空間を共有しましょう。絶対に楽しくなりますし、誰も置いていかない。みんなで一緒に楽しむんだと思って、私たちもサポート体制を整えていますので、迷っている方がいたら、楽しい時間をぜひ共有しに来てほしいなと思っています。